

児童生徒への適切な指導のために

～ 子どもの理解を深める ～

子どもへの適切な指導を行う上で、その基盤となるのは子ども一人一人についての理解を深めることです。子どもの様子が気になったら、その背景・要因について考えてみましょう。「おやっ」と思う子がいたときに、立ち止まって考えることが指導の充実につながります。

「なぜだろう？」が、子どもの理解を深める第一歩！



日頃から、教員は子どもの理解に努めながらかわっています。しかし、理解していると思えていたことでも、改めて「**なぜだろう**」と考えると、さらに気付くことがあるかもしれません。気付いたことをもとに、背景・要因を「**～なのではないか**」と想像してみることが、子どもの理解を深めるきっかけになります。

子どもの理解をもう一步深めるために

背景・要因を考える際に、子どもの思いや子どもの情報も加えてみましょう。
そうすると、「～なのではないか」と想像する視点が広がります。



- ・友達とうまくいっていないのではないかな。
- ・テストで思うような結果が出なかったのではないかな。
- ・何か悩んでいることがあるのではないかな。



子どもの思い

「どう思っているのだろう」、「どうしたいのだろう」など、その子の思いや願いを、子どもの立場に立って考えましょう。

子どもの情報

本人・保護者や他の教員等から話をきく、作品や日記、検査・調査の結果を確認するなど、子どもについての情報を集めましょう。



「がんばったのにできなかった」と言っていたので、テストの結果にがっかりしたのではないかな。

養護教諭に「友達とけんかをした」と話していたので、どうしたらいいのかわからないのではないかな。

かなりつらい状況なのかも…。
もう一度話をきいてみよう。

「最近、家でも元気がない」と保護者からきいたので、深く悩んでいるのではないかな。

「部活動の大会で負けたのは自分のせいだ」と言っていたので、責任を感じているのではないかな。

アンケートでは、悩みについての記述はなかったが、自分の中で抱え込んでいるのではないかな。

子どもの思いや子どもの情報を踏まえて考えると、共感的・客観的に理解を深めることができ、その子に合ったかかわりの手がかりが得られます。

学校では、担任や養護教諭、教科担任、部活動の顧問などの教員等が様々な立場や考え方で子どもにかかわっています。それぞれの違いを生かして話し合うことによって、子どもをより多面的に捉えることができます。

ケース会議の中で

ケース会議の中では、「**背景・要因の検討**」が、子どもの理解を深めるプロセスです。子どもが何に困っているのか、なぜそのような状態にあるのかを考えます。

- ▶ 共有された子どもの思いや子どもの情報をもとにして、「～なのではないか」と考え、それぞれの意見を出し合しましょう。
- ▶ 困っていることだけでなく、うまくいっていること（どんなときならうまくいくのか、また興味・関心、得意なこと等）も併せて考えましょう。

ケース会議の流れ

- 1 情報の共有
- 2 背景・要因の検討**
- 3 指導目標の決定
- 4 対応策の検討
- 5 役割分担の明確化
- 6 次回の確認



部活動顧問

大会後も休まず練習に参加しています。ミスを取り返そうとしているのではないのでしょうか。



教科担任

授業中、努力している様子はみえていましたが…。勉強の仕方がわからなくて、困っているのではないのでしょうか。



養護教諭

保健室では、友達と仲直りをしたいと話しています。少し気持ちの整理がついてきたのではないのでしょうか。

子どもの理解を深めると、指導のアイデアが浮かびますね！

がんばっていることをきっかけに友達との関係について話してみます。

本人に確認しながら、学習方法等を一緒に考えてみます。

引き続き、保健室でも話をきいていただきたいと思います。



担任

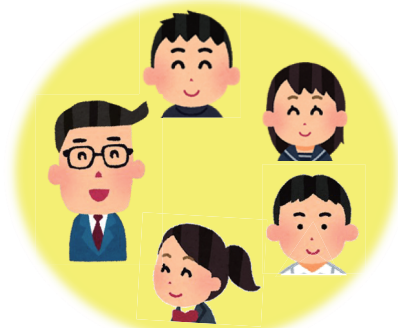
※ 必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門的な立場からの意見も参考にしましょう。

指導の過程や子どもの変容・状況に応じて、背景・要因の検討を積み重ねて、子どもの理解を深めていくことが必要です。

子どもを理解しようとし続ける

日頃から、一人一人に目を向けて

一人一人の子どもに関心をもち、面談だけでなく、日頃から子どもの様子をみたり、話をきいたりするなどして、あらゆる場面で一人一人と接する機会を大切にします。



根気強く、全ての子どもに対して

教員が、子どものことを完全に理解することは難しいと思いますが、**理解しようとする**ことが重要です。日々変わっていく子どもたちを、根気強くわかろうとし続けることが、理解を深めることにつながります。そのことで、子ども一人一人に応じた適切な指導が可能になるのです。

「おやっ」と思う子だけでなく、全ての子どもに対して理解を深めようとする必要があります。子どもが「先生は自分のことをわかろうとしてくれている」と感じると、学校生活を送る上で必要な自信や意欲の土台となる信頼感や安心感が高まるのです。



栃木県総合教育センター教育相談部発行資料

児童生徒支援に関する指導資料

- 児童生徒への適切な指導のために ～指導の進め方～〈リーフレット〉平成26(2014)年
- 児童生徒への適切な指導のために ～かかわりの基本～〈リーフレット〉平成27(2015)年
- 児童生徒への適切な指導のために ～ケース会議の進め方～〈リーフレット〉平成28(2016)年
- 欠席が気になる児童生徒への指導のヒント～不登校の初期対応～〈冊子〉平成29(2017)年
- 児童生徒への適切な指導のために ～一人一人を『認める』～〈リーフレット〉平成30(2018)年

※ その他、多数の資料を発行しております。全て総合教育センターWebサイトからダウンロードできます。

